

特集 地域の文化力で日本を元気に

- 巻頭言 10 経済力と「文化力」●河合隼雄
- 座談会 12 地域の文化力で日本を元気に
(出席者) 上原恵美/長谷川孝治/中村 透/岸 裕司/(司会) 西阪 昇
- エッセイ1 30 日本文化にもっと目を向けよう●新宮康男
- エッセイ2 32 サイトウ・キネン・フェスティバルで松本から元気な日本に●武井勇二
- 事例紹介1 34 ナイトカルチャーで大阪・都市再生●大阪商工会議所
- 事例紹介2 36 YOSAKOIソーラン祭り●YOSAKOIソーラン祭り組織委員会
- 事例紹介3 38 四国の松山俳句甲子園●(社)松山青年会議所
- 事例紹介4 40 歌えば心は億万長者●島根県加茂町教育委員会
- 事例紹介5 42 「ステージオペレーター」の活動●たんば田園交響ホール
- 解説 44 関西元気文化圏とは?●文化庁文化広報推進室

特別記事 宇宙航空研究開発機構(JAXA)がスタート

●独立行政法人宇宙航空研究開発機構

150 宇宙航空研究開発機構(JAXA)がスタート

- 67 情報チャンネル 見てみて！見に来て！
エル・ネット
●エル・ネットを活用した
教育改革フォーラム開催
- 66 情勢チャンネル 見てみて！見に来て！
エル・ネット
●義務教育の学級編制 教職員の
定数・給与をめぐって
進む制度改革
- 60 焦点—文教・科学技術施策
8 インフォメーション
6 であいふれあい●小林綾子
- カラー
表1 あたらしい学舎(まなびや)
●東京都杉並区立和泉小学校
表2 温故知新
●平城宮跡大膳職推定地
出土木簡
表3 温故知新
●JRR-3 原子炉の
熱中性子ビーム強度を六倍に
- 74 SP 事業全国巡回
科学技術・理科大好きプラン最前線
●キット化による理科実験支援
—お茶の水女子大学—
76 次代を輝らす光科学技術
●レイザーのフロンティアを目指して
78 海外最新情報
80 都道府県発
教育・科学技術・学術・文化スポロンユース
兵庫県神戸市、山形市、滋賀県
●山形市、滋賀県
●鹿兒島県市来町
- 84 82 鑑賞席
編集後記

第6回俳句甲子園 全24チーム

番号	都道府県	学校名	地方大会結果	回数
1	北海道	北海道旭川東高等学校		初
2	青森県	弘前学院聖愛高等学校		3
3		青森県立三本木高等学校		初
4	茨城県	茨城県立下館第一高等学校	東京会場準優勝	3
5	東京都	開成高等学校	東京会場優勝	3
6	長野県	長野県塩尻志学館高等学校		3
7	岐阜県	岐阜県立高山工業高等学校		初
8	愛知県	愛知県立幸田高等学校		2
9	三重県	高田高等学校A	三重会場優勝	初
10		高田高等学校B	三重会場準優勝	初
11	京都府	洛南高等学校		初
12	大阪府	大阪府立吹田東高等学校	大阪会場準優勝	2
13		大阪府立千里高等学校		初
14	兵庫県	甲南高等学校	大阪会場優勝	3
15	岡山県	岡山県立江見商業高等学校		2
16	広島県	広島県立安芸南高等学校		2
17	愛媛県	愛媛県立松山東高等学校		5
18		愛媛県立北方高等学校		4
19		愛媛県立宇和島東高等学校	愛媛会場優勝	初
20		愛媛県立今治西高等学校	愛媛会場準優勝	初
21	高知県	高知県立幡多農業高等学校		3
22	福岡県	福岡県立柏陵高等学校	熊本会場準優勝	2
23	熊本県	熊本信愛女学院高等学校	熊本会場優勝	3
24	沖縄県	沖縄県立開邦高等学校		2

の協力を得て大会は成功、好評を博す。一九九九年第二回大会は前回の実績から諸団体の後援を得、参加エリアを愛媛県内に広げ、一校全一三チームが参加。二〇〇〇年第三回大会は三重、香川、岡山から初の県外校を含む二校一四チームが参加。それから二日間開催されることとなり、従来の自己資金に日本財団の助成金を加え全国展開の基盤を作った。二〇〇一年第四回大会は、青森、熊本まで計二四校が出場し名実ともに全国大会に成長し、交流推進を目的にオリエンテーションを開催、試合方法も従来の全試合トーナメント

ト方式から予選にリーグ戦方式を採用、敗者復活戦も加えた。事業費には松山市の共催金を加え、会場を市内中心部の大街道商店街に移し、学生・一般ボランティア約五〇〇名が運営参加、延べ七万人が観戦。二〇〇二年第五回大会はエリアを拡大し青森、沖縄まで二四校が参加し、メディアの関心も膨らみ、高校生たちの俳句への取組が全国発信される。そして本年、第六回俳句甲子園は俳句甲子園OB・OGを中心とする全国的な「俳句甲子園実行委員会」の組織体制を確立し六月初旬に熊本・愛媛・大阪・三重・東京五会場で開催



会場となった大街道商店街

(社)松山青年会議所

四国の松山俳句甲子園

全国高等学校俳句選手権大会

事例紹介

3

本年、六回目を迎えた俳句甲子園は八月七日松山市子規記念博物館にてフィナーレをむかえ、三度目の出場となる東京代表開成高等学校が初優勝の栄冠を獲得した。

俳句甲子園の特色は高校生が俳句という文化的な手法で互いに交流し、高めあう独自のスタイルに象徴される。試合形式は回を重ねるごとに若干改善されているが、本年の例を挙げそのスタイルを紹介する。参加資格は日本の高等学校に在籍するすべての高校生にあるが、一チーム五人編成が参加条件となる。参加者は事前発表の定められた兼題(創作句の中に必ず入れなければならないテーマ)で、未発表かつオリジナルな句を四句創作する。また決勝トーナメントは大会前日に発表された兼題でそれぞれが俳句を二句創作し、即興性を要す。二四チームが六ブロックに分かれ、予選を代表三句勝負による団体リーグ戦形式で、準々決勝以降決勝トーナメントを五句勝負で戦う。各試合は、先鋒(次鋒)・中堅(副将)・大将戦とそれぞれの代表句を披露(読み上げ)し、定められた時間内質疑応答形式で互いの鑑賞力と創作力を主張する(予選リーグは三句勝負につき(一)内の勝負は省く)。俳句の出来を採点する「創作ポイント」「質疑応答の内容を採点する」「鑑賞ポイント」の合計を競い、審査員が試合ごとに勝敗を決する。

ご存知のとおり愛媛松山には正岡子規に代表される独自のすばらしい俳句文化がある。事業主催者(社)松山青年会議所は、市内の小中学生が俳句文化を肌で感じるよう、市内各所に点在する「句碑めぐり」たる事業を一九七六年から二二年間にわたり継続実施した。しかし、同種の事業がボランティア団体や教育機関などで行われるに至り、その使命は完了したものと同断した。そこで俳句の理解度がより高いにもかかわらず、俳句に触れる機会の少ない高校生にスポットを当て、彼らの日本語を操る能力の向上、将来的な日本俳句文学の興隆、高校生相互の文化的交流、さらには大会にかかわる異世代との社会的交流を深め、豊かな人間性を育むことを目的として企画検討した。その結果、従来の若干垣根の高い俳句に対するイメージを払拭すべく、高校生が自身の言葉で自己を表現し互いの句を鑑賞しあう討論形式で進行すること、「楽しい」「簡単・手軽」「おもしろい」などの本来俳句が持っている即興性、洒脱性、大衆性を感じられ、そして何より現代の高校生が熱中できる五人対五人の団体戦によるゲーム形式を採用するなど既存の俳句大会にない斬新な発想で大会運営を開始。八月十九日を「ハイイクの日」と称し、その日を中心に実施展開した。

一九九八年第一回大会は松山市周辺の九校が参加して開催。地元の若手俳句集団や大学

大会を実施。各大会代表二チーム、計一〇チームの参加を決めた。併せて投句審査も実施し、エントリー総数三九チームから選出された北海道、沖縄の計二四チームが参加。安定的な予算の確保に向け支援を呼びかけ、個人・法人の協賛も初めて実現した。

今後さらなる事業の広がりを感じる中、現在、主催者として私たちは事業目的達成のために二つのポイントを重視する。第一に事業の関心をさらに全国規模に加速させる地方大会の充実とエリアの拡大である。それをもとに、参加者もボランティアも事業に携わるすべての方々が楽しみ、そしてそれぞれに自律した連携を実践できる事業環境作りを目指す。

第二に俳句をいつでもどこでもいつまでも楽しみ、学べる機会を広げいく人々とのパートナーシップの確立である。今や松山から全国発信事業となった俳句甲子園を年に一度のイベントとしてとらえるなら、事業参加・支援・観戦をきっかけに俳句文化を継続できる体制が必要。俳句文学を介して美しくそして表現豊かな日本語を巧みに操る人々がさらに多く現れることを彼らとともに望みたい。

最後に本年最優秀個人賞に輝いた雄大な歴史の流れを感じさせる開成高等学校山口優夢君の句を紹介する。

「小鳥来る三億年の地層かな」

(専務理事 新矢 一)

特集

文部科学行政における 評価の実効性の 向上を目指して

▽初雪、初霜など冬の便りが届く季節になりました。朝晩の気温もめっきり冷え込み各地の山々では紅葉と冠雪で美しいコントラストを見せてくれています。

▽二〇〇二年度の体力・運動能力調査結果によると一〇代の青少年を三〇年前の青少年に比較すると体格は伸びても運動能力が低下しています。例えば小学校高学年男子のソフトボール投げでは四メートル近く短くなっている結果が出ています。今月号の「あたらしい学舎」では校庭の芝生化を取り上げました。校庭を元気に駆け回る子どもたちの姿が印象的でしたが、これからの日本を背負う子どもたちが親の世代に負けないように、今の時期に体をいっっぱい使って体力をつけてほしいものです。

▽今回の特集は「地域の文化力で日本を元気に」です。河合文化庁長官は就任当初から「文化で日本を元気にしよう」と提唱されてきました。関西元気文化圏もその一つ。地域の方々の持っている底力を日本全国、世界へと発信していくものです。座談会では日本社会全体を元気にしていく方向性について、地域においてさまざまな活動を展開されている方々からお話をいただきました。ぜひこの機会にご一読ください。

▽ところで今月は一月臨時増刊号として『中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」』も緊急発刊いたしましたので併せてご愛読よろしくお願いたします。

(笹)

●巻頭言

伊藤大一／神田道子

●座談会

黒田玲子／河野真理子／古賀正一／館 昭／佐野 太

●あたらしい学舎

山口県萩市立三見小学校・三見中学校
であい・ふれあい
浦沢直樹

投稿
歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部科学時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んでいる感想、御意見等をお寄せください。

- 「読者からのたより」投稿規定
- ①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
- ※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
- 〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省大臣官房政策課「文部科学時報」編集部
- ※電子メールでも受け付けております。
- 「文部科学時報読者アンケート」
- 文部科学時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。宛先名「jiho@mext.go.jp」

お詫びと訂正のお知らせ
一〇月号表紙「夕茜」解説文中の岡山県「笠岡市」は「笠岡市」の誤りでした。印刷時のミスにより、関係者の皆様にはいへんご迷惑をおかけいたしました。訂正してお詫びいたします。

●著作権所有——文部科学省◎

●発行所——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
 本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
 電話 03-5349-6666 (営業部)
 URL http://www.gyousei.co.jp

●印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

平成15年11月10日印刷
平成15年11月10日発行

定価610円(税別581円)(¥84円)
年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。